小児の肺炎球菌予防接種の説明

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 接種対象年齢 | 生後２月から５歳に至るまで | |
| 望ましい接種開始年齢 | 生後２か月以上７か月に至るまで | |
| ワクチンの種類 | 不活化ワクチン  ※令和 6 年 4 月から 15 価ワクチンが定期予防接種として使用できます。 | |
| 予防する病気 | 肺炎球菌は、肺炎球菌という細菌によって発生する病気で、子どもの感染症の2大原因の一つです。  肺炎球菌は身近に存在する菌ですが、乳幼児のうちの抵抗力が低い時や、体力が落ちた時に発症しやすくなります。肺炎球菌にかかると、髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎などの感染症を引き起こします。特に髄膜炎をきたした場合には2％の子どもが亡くなり、生存した子どもの10％に難聴、精神発達遅滞、四肢麻痺、てんかんなどの後遺症を残すと言われています。  **予防接種の効果**  小児用肺炎球菌ワクチンは子ども用に特化させた肺炎球菌のワクチンで、80種類以上ある肺炎球菌のうち、子どもが感染しやすい13種類の肺炎球菌の感染を防ぐことができます。小児用肺炎球菌ワクチンにより体内に免疫ができると、肺炎球菌による多くの細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎から感染を防ぐことができます。 | |
| 接種回数 | ●標準的な接種  **接種開始月齢：生後２か月以上７か月未満の場合（合計 4 回）**  初回はそれぞれ 27 日以上あけて３回  ※2 回目および 3 回目は 2 歳未満（標準的には 1 歳未満）までに終了させる  ※2 回目および 3 回目が 2 歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能）  ※また、2 回目が 1 歳を超えた場合、3 回目は行わない（追加接種は可能）  追加は初回 3 回目終了後 60 日以上あけて 1 歳以降に 1 回  1 歳以降に 60 日以上の間隔 ２７日間以上の間隔 ２７日間以上の間隔 ※標準として 12 から 15 月の間に  初回１回目 初回２回目 初回３回目 追加１回 | |
| **接種開始月齢：生後７か月に至った日の翌日から１２か月に至るまで**初回は 27 日以上あけて 2 回  ※2 回目は 2 歳未満（標準的には 1 歳未満）までに終了させる  ※2 回目が 2 歳を超えた場合は行わない（追加接種は可能）  追加は初回の 2 回目終了後 60 日以上あけて 1 歳以降に 1 回  ２７日間以上の間隔 １歳以降に６０日以上の間隔  初回１回目 初回２回目 追加１回 | |
| **接種開始年齢：1 歳以上 2 歳未満の場合（合計 2 回）**  60 日以上あけて 2 回接種  ６０日以上の間隔  初回１回目 初回２回目 | **接種開始年齢：2 歳以上 5 歳未満の場合**  **（合計 1 回）**  1 回接種  １回 |
| 実施時期 | 年間通して実施 | |
| 実施場所 | 個別予防接種実施医療機関 | |
| 注意事項 | 初回接種の開始時の月齢ごとに接種方法が異なります。 | |
| 副反応 | 注射部位の発赤・腫脹、全身反応として主なものは発熱などがみられます。 | |
| 備考 | 各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。  必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。 | |